

『キャリアに関する校内研修』（多摩桜の丘学園版） 実施報告（初任者）

令和5年度 多摩桜の丘学園校長&課長コラボ企画研修（校長人材育成研修）

全体像（「キャリア」への意識づけ）

今年度（令和5年度）当初より、全教職員へ校長が常に語りかけている『言葉かけ』について、特に焦点化した。本研修では、『言葉かけ』を中心とした「キャリア」への理解が、教員としての表現力やコミュニケーション力を向上するキッカケとなることを期待した。

- (1) 「キャリア」に関する言葉の理解と定義
- (2) 「キャリア」を自らの経験から考える
- (3) キャリア教育を行うにあたり、言葉の持つ重要性や活用に気付く
- (4) キャリアカウンセリングを体感し、「キャリア」への関心を高める



キャリア教育

系統性（採用～（職業キャリア）～（人生キャリア））

学校現場における教員は、児童・生徒の発達段階に応じたキャリア教育を実践する。効果的な実践のため、受講者自らが多角的な気付きを得るための視点としては、次のとおりである。

- (1) 本研修受講による受講者自身の意識の変容による気付き
- (2) 受講者がこれまでの経験を振り返ることによる気付き
- (3) グループワークから得られる気付き
- (4) キャリアカウンセリングから得られる気付き



受講者アンケート結果から（研修の満足度）

〔No.1〕 平均評価 4.24/5.00

①キャリア教育とキャリア形成 ②心のバイアス ③非言語の理解
受講者の半数にあたる11人が満点(5.00)と評価。受講前と研修終了後の「キャリア」に関する理解度比較では、ほとんどの受講者の理解が高く変容。「キャリア」への理解には不可欠な内容。

〔No.2〕 平均評価 4.45/5.00

①キャリアの振り返り(アサーションの理解) ②キャリア形成(グループワーク)
研修終了後の「自分のキャリアについての関心」が顕著に高い。「言葉かけ」を、かける側と受ける側の双方の感情や言動を、「自分事」として捉えた。

〔No.3〕 平均評価 4.26/5.00

児童・生徒のキャリア教育(グループワーク)
「目の前の児童・生徒のキャリアについての関心」がやや高くなった。9人(42.9%)が「期待した以上だった」または「期待どおりだった」と回答。受講者はグループワークに主体的に取り組んだ。

〔No.4〕 平均評価 4.19/5.00

キャリアカウンセリング体験
「キャリアカウンセリングをまた受けたいと思いますか」の問いに、18人(85.7%)が「とても思った」または「やや思った」と回答。ほとんどの受講者は、キャリアカウンセリングの必要性を感じている。

受講者アンケート結果から（キャリアコンサルタントの配置）

平均評価 4.52/5.00

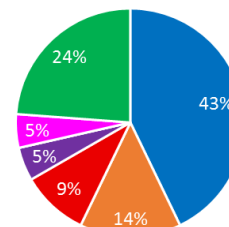
「キャリアコンサルタントを配置したグループワークはいかがでしたか。」の問いに対する評価結果。全ての受講者の個人評価は、5段階の3以上。グループワークにおけるキャリアコンサルタントの支援を、肯定的に受け入れている。

受講者アンケート結果から（キャリアカウンセリング体験）

受講者（初任者）がキャリアカウンセリングにおいて【振り返りシート】から選択した項目を集計したところ、「最近、気持ちがモヤモヤしていること」を選択した受講者（初任者）が最も多く9人(42.9%)、次いで「1年以内において、一番頑張った経験」が5人(23.8%)と多かった。

相談者(受講者)がキャリアカウンセリングにおいて【振り返りシート】から選択した項目No.

● 1 最近、気持ちがモヤモヤしていること	9
● 2 最近、楽しいと思えた経験	3
● 3 最近、困ったと感じた経験	0
● 4 最近、辛く感じた経験	2
● 5 最近、大声で笑った経験	1
● 6 最近、涙を流した経験	0
● 7 1年以内において、強烈に印象に残っている経験	1
● 8 1年以内において、一番頑張った経験	5



受講者アンケート結果から（受講者の変容）

「あなたは自分のキャリアを今よりも、もっと考えたいと思いませんか。」(研修終了直後)の問いに、「とても思った」が10人(47.6%)、「やや思った」が11人(52.4%)。受講者全員が肯定的な回答。



研修成果

受講者（初任者）の「キャリア」に関する理解度を、受講前に自ら認識するとともに研修受講により、どの程度理解度が高くなったかを測定・評価する機会となった。

「目の前の児童・生徒」や「自分の「キャリア」への関心を、研修を通して高く変容した。

